

大和地区（愛知県名古屋市）

1. 大和地区（学区）の概要

(1) 地域特性

大和（たいわ）地区は大和小学校区がその構成要素である。（以下大和学区と表記する）名古屋市千種区の北西部の洪積台地上に位置し、土地区画整理施工済みの住宅を主体とする市街地である。

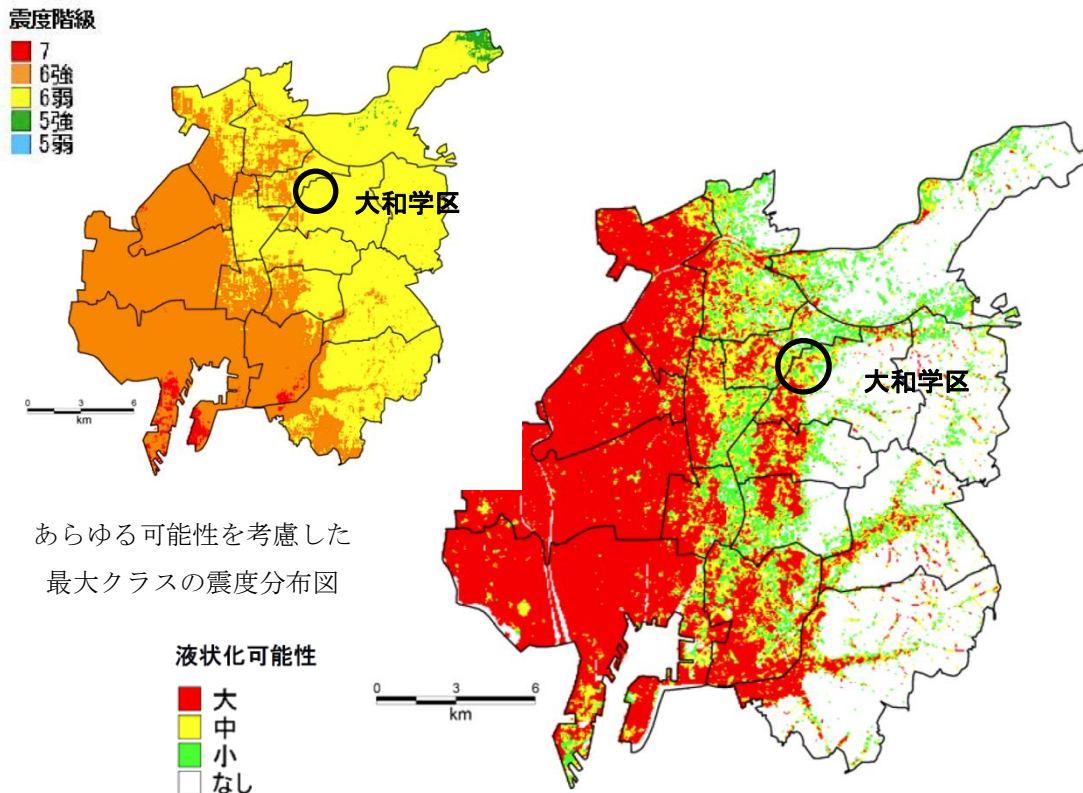
人口：約 6,500 人、 世帯数：約 3,200 世帯、 面積：約 0.5 km²
高齢化率：約 20%（学区内の 65 歳以上の人口が学区の総人口に占める割合）

(2) 過去の災害履歴

近年、特に大きな災害は経験していないが、大雨による浸水被害はあり。

(3) 想定災害

名古屋市の想定では、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震の場合、振動は 6 弱であり、液状化の可能性が高い箇所が地区内に分布している。津波の被害は想定されていない。名古屋市内では、災害危険性の相対的に低い地域である。



あらゆる可能性を考慮した最大クラスの液状化可能性分布図

資料：名古屋市「南海トラフ巨大地震の被害想定について」

地区の一部に古い家屋や細街路も見られ、地震発生時には家屋の倒壊が想定される。



2. 大和学区における従来の取組状況（支援前）

(1) 防災活動、防災訓練の状況

- ・ 災害対策委員、自主防災会責任者を中心に防災リーダー講習会、防災訓練を実施。
平成 22 年度、大和学区独自に災害対策委員に配備した学区防災無線網を活用し、災害時を想定した避難・救出・避難所運営訓練などを実施。また、大和小学校に通う子どもの保護者を対象に心肺蘇生法を実施。
- ・ 防災安心まちづくり委員会、災害対策委員会を中心に防火、防災活動を強化し、各自治会の自主防災組織の強化・訓練に取り組む。特に図上訓練、避難所運営、避難ルート、安否確認等を重視し、今後は各避難所の災害用備品、学区連絡用設備、防火備品・用具、備蓄などの拡充を図る。

(2) 行政他関係機関との連携状況

- ・ 千種区役所と一体となって「千種区助け合いの仕組みづくり」を平成 22 年度から実施しており、避難行動要支援者の申請による名簿化、要支援者の安否確認、情報伝達、避難などの具体化、対策を平時よりすすめている。

3. 大和学区の取組内容（支援後）

(1) 発生した課題及び解決策

① 計画作成主体の立ち上げ

- ・大和地区では自主防災会などの既存組織はあるものの、地区防災計画作成に向けて協議を行う作成主体がなく、組織の立ち上げが課題となった。
- ・モデル地区採択後、地区防災計画の策定に向け検討を行う「大和学区地区防災計画策定に向けた会議」を設置した。学区からは大和学区連絡協議会会長、大和学区内の自主防災会会長等が参加し、行政から消防局、千種消防署、千種区役所、千種土木事務所、大和小学校、振甫中学校が参加している。

② 地域における防災への取組み意識の変化・向上

- ・問題意識が高く、かつ、これまでの取り組みの自負とこれまでの取り組みの中での限界を認識していることから、更なる取り組みの強化・展開を行うためには公助の取り組みが不可欠であるとの認識が強かった。
- ・モデル地区アドバイザーの講演やワークショップ内での議論を通して、これまでの充実した取り組みを基盤として、自助・共助・公助の役割分担の基本構造、共助としての取り組みの基本的なスタンスについて理解が深まった。
- ・活動を拡充していくためには、「完璧は難しいが少しでも被害を軽減すること」、「やれること、やれる人から取り組んで行くこと」が不可欠であるという共助の自律的な活動につながる認識が広がった。
- ・一方で、公助側においては、地域との対話、議論からのフィードバックを受け、地域防災の制度の改善・拡充について議論する機会となるとの認識がなされた。

③ エリア特性への対応

- ・「大和学区地区防災計画策定に向けた会議」において、大和地区内では、エリアによって災害に対する危険性に差異があることなどから地区住民の防災に対する温度差があることが明らかになった。
- ・このためエリアごとに状況を把握し対策を考えていくなど、エリアごとの実情に合った地区防災計画を作成していく方向性についてモデル地区アドバイザーよりアドバイスを行った。
- ・これを踏まえ、地域で地域にあった防災の取組みを進めて行くという気運がメンバー間で高まってきた。

(2) 計画作成の支援内容（ワークショップ等の開催内容等）

- ・ 26 年度内に 2 回の地区防災計画策定に向けた会議を開催し初動期の動きを支援した。
- ・ 第 1 回の会議においては、地区防災計画、地区防災計画モデル事業について参加者に伝えるとともに、モデル地区アドバイザーによる講演会を実施し、地区防災計画策定に向けた今後の取り組みイメージを伝えた。
- ・ 第 2 回の会議においては、学区を構成する各地区ごとに災害に対する取り組み状況や特性が違うといった現状を踏まえ、モデル地区アドバイザーより今後の進め方についてのアドバイスをを行った。

第 1 回 大和学区地区防災計画策定に向けた会議（1/22）

- ・ 地区防災計画及びモデル事業について
- ・ モデル地区アドバイザー講演
加藤孝明准教授 「地域からすすめる防災まちづくりのポイント」
- ・ 意見交換

第 2 回 大和学区地区防災計画策定に向けた会議（3/30）

- ・ 地区防災計画策定の意義について
- ・ 取り組みの体系及び今後の検討事項



第 1 回 地区防災計画策定に向けた会議



第 2 回 地区防災計画策定に向けた会議

4. 成果及び今後のスケジュール

「大和学区地区防災計画策定に向けた会議」を立ち上げ 2 回の会議を開催し、防災に関する現在の取組状況・課題についての整理を行った。また、想定する災害を「地震」とすることとした。

今後は、名古屋市が公表した被害想定についての説明を受けたうえで、学区を構成する各地区単位ごとに現地を歩いて現状及び被害想定の確認を行い、防災に関する目標、体制、進め方などを継続的に検討する予定である。